

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2020年2月20日(木)

NO. 1040号

本号3頁

19日行動怒りの1800人結集、「安倍やめろ」と声響かす

全国各地で取り組まれています「19日行動」。国会前でも18時30分から「嘘とごまかしの政治は許さない！官邸の検察人事介入糾弾！自衛隊は中東沖から撤退せよ！安倍9条改憲NO！安倍政権退陣！2・19国会議員会館前行動」が行われました。

主催は、総かがり行動実行委員会、全国市民アクション。

はじめに、主催者あいさつで憲法共同センターの泉澤章弁護士は、「桜を見る会」をめぐる疑惑について「国政を私物化し、ウソをつく安倍政権を倒そう」と呼びかけました。

次に、駆け付けた立憲民主党の近藤昭一衆院議員、日本共産党の山添拓参院議員がスピーチしました。山添議員は、桜を見る会の前夜祭にふれ、「公的行事を私物化し、うそをつく安倍首相に国政を語る資格はない。市民と野党の共闘で安倍政権を倒し、新しい政府をつくろう」と訴えました。

次に、市民が発言。検察人事問題について法律家6団体の森孝博弁護士、稲田幹事長代理の改憲発言を批判している杉浦ひとみ弁護士、羽田空港低空飛行問題で秋田操氏が発言しました。

最後に、高田健共同代表が行動提起で、「本日の集会名のように言いたいことがいっぱいあり、課題がおおい。しかし、将棋で例えれば安倍は詰められている状態。安倍政権を倒し、安倍改憲を阻止しよう」と語り、今後の行動を紹介し、参加を呼びかけました。

集まった参加者は、国会に向かい、「うそつき安倍は辞めろ」「桜を見る会疑惑徹底究明せよ」「憲法改悪反対」等と怒り声をあげました。



桜を見る会 前夜祭 ホテル回答 首相答弁と矛盾 野党追及

安倍首相は17日の衆院予算委員会で、辻元議員の質問直後に「意味のない質問だ」とヤジを飛ばした問題について「不規則な発言をしたことをおわびする」とメモを棒読み。国会審議を否定した暴言であることへの反省はなく、「桜を見る会」前夜祭問題でも従来と同じ答弁を繰り返しました。

立憲民主党などの共同会派の辻元清美議員は、「桜を見る会」の前夜祭について、会場となったANAインターコンチネンタルホテル東京が安倍首相の国会答弁と矛盾する回答をしたことを提示しました。それによれば、2013年、14年、16年に前夜祭の会場となったANAホテルに13年以降の7年間に開かれたパーティー・宴席について問い合わせたところ、ホテル側は「主催者に対して、見積書や請求明細書を発行した」「領収書において、宛名を空欄のまま発行することはない」「代金は主催者からまとめて支払ってもらおう」「主催者が政治家および政治家関連の団体であることから、対応を変えたことはない」と回答したと発言。さらに、辻元氏は「国会で真実と異なる答弁を繰り返し、さらに政治資金規正法違反の疑いが濃厚になった」とただしました。

これに対して、安倍首相は「全日空側にわれわれも確かめさせてもらいたい」と答弁。辻元氏に続いて質問に立った共同会派の小川淳也議員に、安倍首相は「私の事務所が全日空ホテルに確認したところ、『辻元議員にはあくまで一般論で答えたもので、個別案件については営業の秘密にかかわるため回答には含まれていない』ということだ」と述べ、前夜祭はホテル側の回答には含まれていないと主張しました。辻元氏の指摘との食い違いがあらわになりました。

小川氏は、辻元氏の問い合わせにホテル側は書面での質問を求め、書面で回答していることを指摘。安倍首相の“説明”に納得せず、ホテル側の回答を文書で得るよう求めましたが、安倍首相は「改めて書面にする考えはない」と拒否しました。

首相答弁 ホテル側が否定

朝日・毎日の報道によりますと、同日夜にホテル側がメールで回答があったとのこと。内容は、辻元氏に「一般的として答えた」としながら、『個別の案件については営業の秘密にかかわるため、回答に含まれない』との事実はございません」と首相の答弁を否定しました。

安倍内閣の支持率急落 桜・新型コロナウイルス・カジノ 国民怒る!

当然ですが、世論調査で安倍内閣の支持率が急落しています。6～9日の時事通信は1.8ポイント減でしたが、15、16日前後では5ポイント、5.6ポイント、8.3ポイントと下落しています。1週間で下落率が大きくなっています。

読売新聞 5ポイント減

読売新聞社が14～16日に実施した全国世論調査で、安倍内閣の支持率は47%となり、前回調査(1月17～19日)の52%から5ポイント低下しました。不支持率は41%(前回37%)でした。安倍首相が主催する「桜を見る会」を巡る問題について、首相のこれまでの説明に「納得していない」との回答が74%に上り、安倍首相が「桜を見る会」の審議でうそをつき、まともに答えず、資料提供・調査にも応じない姿勢に国民が怒り、支持率の下落となりました。

ANNでは5.6ポイント下落

ANNの世論調査で安倍内閣の支持率が4割を切り、「支持する」と「支持しない」が逆転しました。調査は15・16日に行われました。それによりますと、安倍内閣を「支持する」と答えた人は39.8%と先月の調査から5.6ポイント下落しました。一方で「支持しない」と答えた人は42.2%と前回より6.5ポイント上昇しています。「支持する」と「支持しない」が逆転したのは1年2カ月ぶりです。やはり「桜を見る会」問題で、通常国会が始まって1カ月が経ちますが、「桜を見る会」を巡る疑惑について安倍総理大臣が十分に説明を行ったかについては77%の人が「思わない」と答えています。

共同通信 8.3ポイント下落

共同通信社の世論調査によりますと、安倍内閣の支持率は41.0%で、1月の前回調査から8.3ポイント下落しました。「桜を見る会」の疑惑に関し、安倍首相が「十分に説明していると思わない」は84.5%と依然高く、首相の国会対応への批判が背景にあるとみられます。支持率に関しては、森友学園問題を巡る決裁文書改ざん発表後の2018年3月の調査で9.4ポイント急落して以来の大幅下落。今回の不支持率は前回から9.4ポイント増え、46.1%でした。桜を見る会のほか、黒川弘務・東京高検検事長の定年を半年間延長した閣議決定に関する法解釈の変更、野党議員へのやじといった首相の国会対応が原因になっている可能性があるとして報道しています。また、カジノを含む統合型リゾート施設(IR)を巡る汚職事件を受けIR整備を見直すべきだとの回答も、前回から6.9ポイント増え77.5%に達しました。

1週前の支持通信の世論調査では、1.8ポイント減 つまり1週間で下落幅が広がる?

時事通信が6～9日に実施した2月の世論調査で、安倍内閣の支持率は前月比1.8ポイント減の38.6%、不支持率は2.8ポイント増の39.8%でした。不支持率が支持率を上回ったのは、森友・加計学園問題で政権不信が高まっていた時期の2018年8月以来1年6カ月ぶり。支持率3割台は19年3月以来でした。

内閣支持率は昨年12月に急落し、反転しない状況が続いています。安倍首相が地元支援者を多数招いた「桜を見る会」をめぐる疑惑の解明が進んでいないことなどが影響していると考えられています。内閣を支持する理由(複数回答)は「他に適当な人がいない」が最多の20.3%で、「リーダーシップがある」9.7%、「首相を信頼する」7.9%など。支持しない理由(同)は「首相を信頼できない」24.3%、「期待が持てない」19.4%、「政策が駄目」12.0%などとなりました。

各地のとくくみ

鳥取 県弁護士会と5月3日講演・シンポ開催など意見交わす

2月29日に東・中部諸団体がフラン持ち寄り、詰めの協議

1月25日(土)14時から1時間余り、鳥取県弁護士会と、憲法記念日に講演会やイベントを開催・参加してきた諸団体との意見交換会が鳥取市と米子市の弁護士会館を結んで開催されました。鳥取会場には憲法委員会所属の大田原俊輔・中崎雄一・房安 強・小松哲也の各弁護士と鳥取市9条の会、国民民主党県支部総連合会、新日本婦人の会県本部・憲法改悪反対県共同センター、県生活協同組合連合会、日本共産党県委員会、米子会場には県九条の会、子どもの人権広場、安保法制いけん!廃止を求める大山町民の会と百毛公平弁護士が出席。参加は8団体にとどまりました。

はじめにそれぞれが自己紹介。続いて弁護士会から5月3日に実施する企画の構想が示され、参加者との間で意見を交わしました。

弁護士会の提案の概要は、次のとおりでした。

①開催時期は5月3日(憲法記念日)、会場は県民文化会館改装のため鳥取市文化ホール(吉方温泉町3丁目701 Tel0857-27-5181)。時間は13:30~17:00。

②開催の形は講演とシンポジウムまたはパネル方式。

③テーマは自衛隊憲法明記問題(弁護士会としては安倍政権批判を前面には出せない)

④講師は九州大学・南野 森(みなみの・しげる)教授(憲法学)に交渉中。

⑤それ以外の集会・パレードなど当日の行動は諸団体で。道路使用許可が必要かも。

チラシの表面と裏面に講演・シンポと屋外行動を分けて記載する方法もある。

参加者からは次のような意見が出され、2月29日に再度協議することになりました。

・5月3日恒例のハト風船は、環境への配慮をどうするのがよいか課題だ。子どもと一緒に遊べる形を考えている(鳥取市9条の会)

・9条問題について、平易な言葉で分かりやすく話して欲しい(新婦人)

・弁護士会と諸団体とで共同できるテーマを設定して一緒にやれば(中崎弁護士)

・前は悪天候で流れ残念だったが、全県下からバスや車で乗り合わせて集まり、音も出して賑やかにやれたら。若いママに託児を(こどもの人権広場。前々回利用なし)

・西部では連続憲法学習・講演会の主催団体間での協議はこれからだ(県九条の会)

※憲法しんぶん速報 1035号で紹介しましたが、さらに詳細な報告が届きましたので、再度紹介しました。各地でも5・3集会の準備が進められていることと思います。とくみの情報を送ってください。

大阪 府内で緊急署名が本格スタート 署名を力に安倍政権退陣を!

2月2日大阪憲法会議・共同センター主催の改憲発議に反対する「全国緊急署名スタート集会」をはずみに、府内各地で新署名宣伝行動がとりくまれています。2月9日、全府的「9の日宣伝」は淀屋橋で午後5時から行い、冒頭スピーチした辰巳孝太郎さん(日本共産党前参議院議員)の訴えに足を止める市民も。寒風のなか、自ら手を伸べはがきリーフレットを求めてくる市民が目立ちました(桜リーフレット140枚配布)。

2.11 豊中市民アクション主催の新署名スタート集会に60人

新署名スタート集会では、富田宏治さん(関西学院大学教授)が「激動する内外情勢と改憲阻止の展望」というテーマで講演。富田先生はアメリカでは現在、民主党候補者選でサンダース議員が健闘しているが、この流れは、世界で8人の富裕者が3億7500万人の富を持つという貧困・格差の拡大にある。日本でも貯蓄ゼロ世帯が安倍政権下で急増。有権者の政治的無関心層とかつて民主党政権を誕生させた現在の大量棄権層、この二つの層にどう働きかけるかが勝負。市民と野党の共闘の力で安倍を追い詰めてきたツメの闘いとして緊急署名の意義がある。秋にも解散の可能性はあるなか、野党連合政権を展望して奮闘しよう と締めくくられました。

2月3日、1時間で桜リーフなんと400枚配布 住吉

住吉市民アクションはあびこ観音露店前の広場にのぼり10本を立て、12人で宣伝行動。1時間で桜リーフを400枚配布。「お参りご苦労さんです」と手渡し、二人が署名版をもって20筆めました。「戦争はイヤだ」「カジノは絶対ダメ」という声もある中、1時間で400枚という配布に参加者もおおいに励まされました。